

【研究ノート】

中国青年の社会意識についての覚書

—— 政治意識を中心に ——

星 明

一

筆者は1985年、中国社会学の研究を始めて以来、中国社会および中国人とかわってきている。そこから、中国は変わったと実感している。北京や上海の都市の外観が変わっただけではない、組織の構造や人々の意識が確実に変わった。この変化を感覚としてではなく、意識調査をとおして、中国の青年の社会意識を実証的に明かにしたい。これがこのノートの目的である。

社会意識とは、社会集団の形成、維持、発展、変革に機能する精神的な諸過程と諸形象（共有された思考・感情・意思の諸様式の総体）をいうが、ここでは社会の領域にみられる一つの意識として、具体的に政治意識を取り挙げる。また、政治価値観は政治意識、政治的観点、政治的態度の体現であるが、この小論では政治意識と政治価値観をとくに区別しないで論じた。

新中国建国後30年は、政治動員型の社会であった。しかし、1978年の改革開放政策の実施以降、次第に経済が重視されるようになった。とはいっても、政治が主役を下りたわけではない。未だ、中国は社会の時代には至っていない。

しかし、経済的發展は個人の所得水準、教育水準を高めて、多くの中間層を生み出す。かれらが、政治的自由化を志向することは考えられる帰結である。

二

中国の青年は、国際・国内の重大な社会問題に大きな関心をもっている。それは、例えば、1996年現在、次のような内容にみられる。李登輝の訪米と米中関係に関心をもつ者89.70%（非常に関心がある56.30%、やや関心がある33.40%）、重大な汚職に

対する中央政府の処理に関心をもつ者86.70%（非常に関心がある52.10%、やや関心がある34.60%）、中国のWTO加入申請に関心をもつ者85.70%（非常に関心がある47.30%、やや関心がある38.40%）、江沢民主席の兩岸関係を発展させ祖国平和統一を推進させようという八つの主張に関心をもつ者81.10%（非常に関心がある39.40%、やや関心がある41.70%）である¹⁾。

この結果をもって、中国の青年は政治的、社会的志向が強いというのは正しくない（ナショナリズムの意識の強さは否定できないが）。というのも、人生観と価値観を基本的に表現する人生の幸福についてみると、社会よりもむしろ自己に志向していることがわかる。表2-2からわかるように、社会中心志向をもつ者3割対して、自己中心志向は2倍以上の7割である。この傾向は日本の場合とまったく同じである²⁾。

表2-1 あなたの人生のもっとも大きな幸福はなんですか（1996年）

1. 共産主義のために終生奮闘すること	9.1	⑤
2. 社会に貢献すること	15.18	③
3. 和やかな家庭をつくること	20.38	②
4. 生活の安寧、平凡な一生	10.65	④
5. 気心の知れた友人をもつこと	7.32	⑥
6. 出世、権力のあること	1.94	⑩
7. 金持ちになること	2.98	⑧
8. 仕事の成功	23.42	①
9. 他人からの尊敬	5.46	⑦
10. 広い住まい	0.98	⑪
11. その他	2.01	⑨

出所：呉魯平他、1997、「1996年中国青年思想道德文化発展状況研究報告」、中国青少年研究中心・中国青少年発展基金会、『中国青少年発展状況研究報告（1996）』、中国青年出版社、p.121。

これらの選択肢を、自己中心／社会中心という軸で順位によって整理すると次のよ

- 1) 中国青少年研究中心・中国青少年発展基金会、1997、『中国青少年発展状況研究報告（1996）』、p.121。
- 2) NHK放送文化研究所編、1998、『現代日本人の意識構造』（第4版）の生活目標の項参照。NHK調査は「身近な人たちと、なごやかな毎日を送る」を自己本位ではなく、社会本位に位置付けているが、筆者は「身近な人たちと、なごやかな毎日を送る」は一定部分が社会本位ではなく、自己本位に位置付けられると考える。確かに、社会学では身近という場合、第1次集団とそこでのメンバー間の対面関係が予想される。概念的にはそれも社会である。しかし、そこでいわれるメンバー数は多くて10名であろう。これは社会生活の実感として、社会というよりもむしろ個人の延長として考える方が妥当と筆者は理解するからである。マイホーム主義は社会現象であるけれども社会を志向する方向ではなく個人を志向する方向をもつ。もちろん、この身近な集団が地域社会の問題に関わっている時には、幾分か社会を志向しているといえるが。

表 2-2 志向別の人生の目標

自 己 中 心	社 会 中 心
仕事の成功 ①	社会に貢献すること ③
和やかな家庭をつくること ②	共産主義のために終生奮闘すること ⑤
生活の安寧、平凡な一生 ④	気心の知れた友人をもつこと ⑥
他人からの尊敬 ⑦	
金持ちになること ⑧	
出世、権力のあること ⑩	
広い住まい ⑪	

出所：表 2-1 と同じ。p.121 から作成。見田宗介の四つの価値類型を参考に、自己の欲求を充足させるものを自己中心、社会（他者）の欲求を充足させるものを社会中心とした。しかし、「和やかな家庭…」は自己中心とした。

表 2-3 あなた自身のもっとも大きな幸福はなんですか（1988、1990）

	お金	親友	自由	権力	入党	家庭	尊敬	社会貢献	事業成功	健康
1988年 (都市)	11.6	17.1	7.6	4.0	3.3	17.5	4.4	6.1	18.9	—
1988年 (農村)	13.1	11.9	6.2	3.19	5.1	18.6	3.9	10.9	1.8	—
1990年	8.9	30.5	9.2	4.8	—	42.3	14.8	14.3	43.5	18.4

*1990年は複数解答（二つ選択）。1988年は選択肢に健康はなし、また1990年は入党はなし。

出所：唐灿、1993、「青年の人生価値観」、中国社会科学院社会学研究所当代中国青年価値観演変課題組、『中国青年大透視—關於一代人的価値観演変研究—』、北京出版社、P.68。

うになる。

さて、中国人の社会意識が大きく変わり始めたのは1978年の改革開放政策以後である。中国人のもつ伝統的な社会意識の潜在化していた要素が、顕在化してきたことによるのか、あるいは時代の経済的、政治的、社会的な要因によるのかは定かではないが、恐らくその双方が関わっているであろう。前者は内から外へのベクトルが内から生じたのであり、後者は同じく内から外へのそれが外から引っ張られたのである。いずれにしても、両者は相乗している。

ところで、中国は1949年10月の建国に至る過程で急激かつ根本的な社会変動である革命を経験した。その後、思想改造、大躍進、反右派闘争、文化大革命、改革開放と時には人々の生死や世界観、価値観、人生観を左右する運動を体験してきた。そのことによって、中国人は他の社会とは異なって、年齢層ごとに区分できる価値観がみられるという。例えば、陳平原は、1994年現在、中国の学術界で活躍しているのは50年代から60年にかけて大学教育を受けた世代と文革の後に大学院に進んだ世代の二つの

世代が中心だという。前者はソ連の学問を、後者は欧米の学問を受容しているという。また、前者は政治的意識や政治目的の手段としての学問を、後者は学問の独立性と自立性を強調するという。1998年現在、年齢的には前者は58～68歳、後者は43～48歳である。陳平原は人文・社会科学の研究にとっての文革の人生経験・社会経験の重要性を強調し、文革の経験のない40歳代前半の研究者をそれほど評価していない³⁾。また、千石保と丁謙は中国人を革命、文革、改革の三つの世代に区分し、それぞれの特徴を意識調査から分析している⁴⁾。また、楊東平は、1949年から1979年の30年間を、1949年から1966年の17年間と1966年から1976年の10年間の二つに区分し、前者を50年代青年、つまり「第二代人」、後者を60、70年代青年、つまり「第三代人」としている⁵⁾。

かつて、筆者も新中国成立以後を、1945年以後50年代、60年代初期の「解放期および建国期」、60年代半ばから70年代半ばまでの「文革期」、80年代の「改革開放期」の三つに分け、それぞれの時期に青年期を過ごした人々をそれぞれ「解放世代」、「文革世代」、「改革開放世代」とした。そして、それを次のように概念図式化したことがある⁶⁾。

図1-1 中国人の価値指向

	政治中心	経済中心
社会中心	解放世代 文革世代	
自己中心		改革開放世代

社会意識を全体的にみて、二つに大別すれば、時代とともにほぼ一貫して変化するものと、その時代の社会、経済的な状況を受けて変化するものとがある。この後者はさらに二つに分けられる。すなわち、当該の時期のみに一時的なものと、たとえその時期に新たに生まれた傾向だとしても、時間が経過してもほぼ変化のないものの二

3) 陳平原・渡辺浩、1995、「九〇年代中国の知識界」、『思想』、7月号、岩波書店。

4) 千石保・丁謙、1992、『中国人の価値観—変わりゆく社会意識とライフスタイル—』、サイマル出版社、P.10

5) 楊東平、1994、「青年社会参加与発展報告」、単光鼎・陸建華主編『中国青年発展報告』、遼寧人民出版社、P.463

6) 星明、1996、「中国における研究者の生活と社会意識」、『社会学部論集』、第29号、佛教大学社会学部、P.92

つである。先に挙げた、中国の解放世代や文革世代の社会意識のあるものは時間が経過してもほぼ変化のないものといえる。

しかし、今後この区分も次第になくなると筆者は予測している。というのも、解放世代の自然減少は当然だとしても、同じ経済的、政治的、社会的状況が長期にわたって継続すれば、その価値観は近似することがみられるからである。これは、NHKの日本人の社会意識調査をからも看取できる⁷⁾。

三

陸建華は、青年の政治価値観を三つの側面から把握することを提案している。つまり、第1は主要な政治現象、政治活動、政治的事件に対するかれらの考え方、第2は政治問題に関する意見に対するかれらの態度、第3はかれらの政治参加の行為志向である⁸⁾。このように三つの側面から政治価値観にアプローチすることは、実際政治価値観を全面的に、したがって比較の視点から把握することに役立つ。例えば、NHKの現代日本人の意識調査も、陸建華と内容は異なるが、政治的態度を「権利についての知識」、「政治の有効性感覚」、「政治活動」の三つの側面から把握している。

具体的に、陸建華はそれぞれについて次のような質問を挙げている。

第1は、

「あなたは、国家の善し悪しを計るもっとも重要な基準は何だと思えますか」(政治的現実についての評価)、

「あなたは、国家の重要な政策はどのようにして決めるべきだと思えますか」(政策の決定手続き)、

「あなたは、どのような人を人民代表に選ぶべきだと思えますか」(人民代表資格の認定)

第2は、

「社会の風紀を改めようとするならば、多くの包公がおればよい」(清官意識)、

「改革は指導者が行なうことであって、一般の人びとにはなんにもならない」(政治の配慮意識)、

「言論の自由は、反動的言論を發表することではない」(言論の自由の限界)、

「政治に携われれば身を潔癖にすることができない」(政治の清廉についての考え

7) NHK放送文化研究所編、1998、『現代日本人の意識構造』(第4版)、日本放送出版協会。

8) 陸建華、1993、「青年の政治価値観」、中国社会科学院社会学研究所当代中国青年価値観演變課題組、『中国青年大透視—關於一代人的価値観演變研究—』、北京出版社。

方)

第3は、

「あなたはどの人物が好きですか」(政治家の崇拜志向)、

「政治の問題について、あなたは誰の意見にもっとも耳を傾けますか」(政治問題の意見形成)、

「あなた自身のもっとも大きな幸福はなんですか」(人生の幸福の選択)である。

ここでは、陸建華のアプローチによりながら、中国青少年研究センターの新たな調査の中から、陸建華の枠組みに入る新たなデータを加え、政治意識や政治価値観の趨勢をみたい。

1) 主要な政治現象、政治活動、政治的事件に対する考え方

* 「あなたは、国家の重要な政策はどのようにして決めるべきだと思いますか」は省略。

表3-1 国家の善し悪しを計るもっとも重要な基準は何だと思われますか
(二つ選択、1990年)

経済の強さ	38.6
社会の安定	48.9
民主化の高さ	12.5
貧富の差の少なさ	3.1
生活レベルの高さ	22.9
国際的地位の高さ	5.9
福祉施設の発達	2.5
普遍的な共同の信念の存在	12.8

出所：陸建華、1993、「青年的政治価値観」、中国社会科学院社会学研究所当代中国青年価値観演變課題組、『中国青年大透視－關於一代人的価値観演變研究－』、北京出版社、p.141

表3-2 あなたは、どのような人を人民代表に選ぶべきだと思いますか (1990年)

党の路線や政策に忠実な人	10.5
人々の利益を代表し、直言できる人	81.2
政治的能力をもち、経験のある人	5.1
労働模範、先進労働者	1.2

出所：表3-1と同じ。p.143

2) 政治問題に関する意見に対する態度

祖国愛は97%。中国を愛することと社会主義中国を愛することを同一視している者

表 3-3 あなたは次の意見に賛成ですか、それとも反対ですか

	反 対	やや反対	やや賛成	賛 成
1. 社会の風紀を改めようとするならば、 多くの包公がおればよい (1998年、都市)	8.9	16.1	24.1	48.6
2. 改革は指導者が行なうことであって、一 般の人びとにはなんにもならない (1988年、都市)	34.3	29.8	18.5	14.9
3. 改革と私は関係がない (1988年、農村)	58.7	19.4	10.1	8.2
4. 言論の自由は、反動的言論を発表するこ とではない (1988年、都市)	7.7	12.8	24.3	51.9
5. 政治に携われば身を潔癖にすることがで きない (1988年、都市)	31.1	31.1	19.5	13.1

出所：表 3-1 と同じ。pp.143～145から作成。

表 3-4 あなたは愛国主義についてどのように理解していますか (1996年)

	全 く そう思う	や や そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	わからない
1. 世界で経済が一体化している 90年代に、愛国主義を論じる のは現実的ではない	5.67	6.31	23.56	62.03	2.43
2. 一個人として、当然自分の祖 国を愛すべきだ	86.94	10.43	1.31	0.83	0.49
3. 中国を愛することは、当然社 会主義中国を愛することをさす	53.48	25.91	15.18	3.20	2.23

出所：呉魯平他、1997、「1996年中国青年思想道德文化発展状況研究報告」、中国青少年研究中心・
中国青少年発展基金会、『中国青少年発展状況研究報告 (1996)』、中国青年出版社、p.118。

は79%、しかし国家と政治体制とを区別している者も18%ある。

表3-5 あなたはあなたの周りの青年は愛国的だと思いますか (1996年)

1. 非常に愛国的である	19.79
2. やや愛国的	56.73
3. どちらともいえない	17.94
4. あまり愛国的ではない	4.86
5. 少しも愛国的ではない	0.66

出所：表3-4と同じ。p.119。

3) 政治参加志向

表3-6 政治の問題について、あなたは誰の意見にもっとも耳を傾けますか
(二つ選択、1990年)

親友	9.0
専門家、学者	24.4
党や政府の指導者	37.7
自分	60.1
世論、宣伝	20.5
先生	7.8
父母	14.5

出所：表3-1と同じ。p.146。

表3-7 もし中国が外国から侵入されたら、あなたは軍に参加しようと思いませんか
(1996年)

1. 自ら加入し、参軍を望む	71.36
2. 自分から加入しないが、もし召集されれば参軍する	27.21
3. できる限り、参軍を避ける	1.43

出所：表3-4と同じ。p.119。

* 「あなたが好きな人物は誰ですか」は省略する。

付記：今回（1998年9月）、北京で中国社会科学院社会学研究所及び同所青少年研究室の研究者と研究会をもった時、中国人研究者から、今後10年もすれば中国の青年、大学生も日本と同じ様な価値観と行動様式をもつようになると思う。中国の青年の今

後を知るために、日本の青年が現在どのような価値観をもち、どのような行動様式をもっているか、そしてどのように変化してきたかを知りたいという発言があった。それと同時に、日本の大学生は中国の大学生に比べ、歴史的事実についての知識が少ないとの指摘があった。

【資料】

表 4-1 中国青少年の年齢別人口（単位：千人）

全国総人口	総人口 6-35歳	少年 6-14歳	青年 15-29歳	青壮年 30-35歳
1223890 100.0%	673909 55.06	216674 17.70	321285 26.25	135950 11.11

出所：中国青少年研究中心・中国青少年発展基金会、1997『中国青少年発展状況研究報告（1996）』、中国青年出版社、p. 251。

表 4-2 中国青少年の地区別人口分布（1996年） 単位：千人

地区別	各地総人口数	6-35歳 総人口数	総人口に占める 青少年の割合	6-14歳		15-29歳		30-35歳	
				総人口	%	総人口	%	総人口	%
総計	1223890	673909	55.06	216674	17.70	321285	26.25	135950	11.11
北京	12590	6394	50.79	1657	13.19	3024	24.08	1713	13.64
天津	9480	4685	49.42	1505	15.88	2054	21.67	1126	11.88
河北	64840	35789	55.20	11955	17.46	16480	25.42	7354	11.34
山西	31090	17274	55.56	5774	18.57	8182	26.32	3318	10.67
内蒙古	23070	13214	57.28	3833	16.61	6703	29.06	2678	11.67
遼寧	41160	21666	52.64	5922	14.39	10544	25.62	5200	12.63
吉林	26100	14506	55.58	3957	15.16	7259	27.81	3290	12.61
黒竜江	37280	21219	56.92	5766	15.47	10766	28.88	4687	12.57
上海	14190	5659	39.88	1770	12.47	2470	17.41	1419	10.00
江蘇	71100	36493	51.33	11143	15.67	17094	24.04	8256	11.61
浙江	43430	22958	52.86	6123	14.10	11416	26.29	5419	12.48
安徽	60700	35374	58.28	11183	18.42	16858	27.77	7333	12.08
福建	32610	19074	58.49	6876	21.09	8815	27.03	3383	10.37
江西	41050	24020	58.51	7955	19.38	11815	28.78	4250	10.35
山東	87380	47942	54.87	16016	18.33	21422	24.52	10504	12.02
河南	91720	52499	57.24	18276	19.93	24604	26.83	9619	10.49
湖北	58250	32228	55.38	10787	18.52	14625	25.11	6816	11.70
湖南	64280	36623	56.97	12056	18.76	17249	26.83	7318	11.38
広東	69610	37811	54.32	14391	20.67	16241	23.33	7179	10.31
広西	45890	27393	59.69	9750	20.85	12875	28.06	4768	10.39
海南	7340	4352	59.29	1542	21.01	2058	34.17	752	10.25

四 川	114300	60204	52.67	17117	14.98	30872	27.01	12215	10.69
貴 州	35550	20745	58.35	6583	18.52	10675	30.03	3487	9.78
雲 南	40420	23448	58.01	7305	18.07	12032	27.99	4111	10.17
西 藏	2440	1503	61.60	543	22.25	685	28.07	275	11.27
陝 西	35430	20208	57.04	7084	19.99	9197	25.96	3927	11.08
甘 肅	24670	14404	58.39	4695	19.03	6894	27.94	2815	11.41
青 海	4880	2960	60.66	863	17.68	1562	32.01	535	10.96
寧 夏	5210	3119	59.87	1028	19.73	1544	29.64	547	10.50
新 疆	16890	10145	60.07	3219	19.06	5270	31.20	1656	9.80

出所：中国青少年研究中心・中国青少年発展基金会、1997、「中国青少年発展状況研究報告（1996）」、pp.258～259。

表4-3 全国普通学校基本調査状況（1966年） 単位：万人

			学校数	卒業生数	募集数	在学生数	教職員数	
							合計	其中：専任教師
總 計			935211	3818.08	7034.76	23090.44	1394.19	1102.08
研究生(人)			740	3.97	5.94	16.23		
普通高等学校 本 専 科			1032	83.86	96.58	302.11	103.58	40.25
普通中等学校	中等專業 学 校	中等技術 学 校	3206	73.79	120.77	334.78	42.98	20.43
		中等師範 学 校	893	28.08	31.57	88.01	11.31	6.31
	技工学校		4507	68.15	69.66	188.50	33.67	15.29
	普通中学	高 中	13875	204.93	282.23	769.25	57.21	
		初 中	66092	1279.04	1760.70	4970.43	289.27	
	職業中学	高 中	8515	120.79	158.23	395.75	26.85	
		初 中	1534	18.76	30.68	77.52	3.92	
	工読学校		83	0.23	0.27	0.60	0.28	0.14
小 学			645983	1934.08	2524.66	13615.00	638.58	573.58
特殊教育学校			1428	2.38	4.82	32.11	3.978	2.70
幼 稚 園			187324		1951.65	2666.33	117.38	88.86

出所：黄志堅他、1997、「1996年中国青少年社会発展状況総報告」、中国青少年研究中心・中国青少年発展基金会、「中国青少年発展状況研究報告（1996）」、p.15。

表 4 - 4 地域別青年（15-35歳）の学歴分布（1996年）％

地 区	文盲半文盲	小 学	初 中	高 中	大 学
全 国	4.39	28.63	49.04	14.84	3.10
北 京	0.49	4.67	34.34	40.76	19.77
天 津	1.22	13.04	50.83	28.21	6.66
河 北	2.48	24.33	58.39	12.87	1.92
山 西	1.09	21.21	56.33	17.39	3.40
内 蒙 古	3.84	26.27	46.53	19.08	4.30
遼 寧	0.62	17.66	59.54	17.19	4.50
吉 林	1.17	21.51	51.25	21.87	4.21
黒 竜 江	1.31	20.05	53.76	20.35	4.53
上 海	0.49	4.55	42.43	39.04	13.49
江 蘇	2.32	18.91	56.40	18.65	3.72
浙 江	2.02	25.34	54.92	15.53	2.20
安 徽	3.18	38.21	47.77	9.23	1.60
福 建	7.07	40.69	37.41	12.66	2.16
江 西	5.31	40.41	43.76	11.57	1.56
山 東	4.81	23.67	55.53	14.08	1.91
河 南	2.21	23.82	59.39	12.10	2.47
湖 北	2.75	30.21	46.12	17.54	3.39
湖 南	2.28	31.50	48.01	15.63	2.57
広 東	1.61	27.90	55.27	13.06	2.15
広 西	2.43	36.05	49.56	10.80	1.15
海 南	5.12	30.71	48.01	13.78	2.76
四 川	5.38	37.28	43.47	11.72	2.15
貴 州	17.01	36.38	33.12	11.01	2.48
雲 南	13.22	43.90	30.51	9.94	2.42
西 藏	48.33	37.29	11.98	1.56	0.8
陝 西	5.92	25.24	45.74	16.94	6.16

出所：表 4 - 3 と同じ。pp.19～21。